

①面接者のパフォーマンス

→支援度のコントロール 等

②判定の精度を上げる

→「わかりやすさ」の判断の規準 等

③生活者のコミュニケーション力の目標設定

→会話例の分析

・「わかりやすさ」の要因は？

例) 文の羅列でもOKな人とそうでない人
直接話法でも //

・「協働力」の測定??

※目指すのは母語話者のような喋りではなく、IV+のしゃべり？

④学習プログラムの検証と教材の改訂

⑤実施対象の拡大

→センター外の帰国者や帰国者以外の生活者へ

⑥地域の学習支援者との連携

日本人側に必要とされる コミュニケーション力

- 前提としての支援的/協力的態度、敬意
 - ▶聞き返す、推測して助け船を出す 等々
- 標準語を使ってみる／方言を使ってみる
- 普通体で話してみる／丁寧体で話してみる
- 話題や質問の選び方に配慮する
- 相手に合わせて、わかりやすく話す
 - ▶ゆっくり話す、はっきり話す
 - ▶言い換える：
 - ・単純な聞き方にする
 - ・キーワードを強調する
 - ・AorB/YesNo Q にする
 - ・例を出す
 - ▶話の組み立てをわかりやすくする 等々

それでもだめなら…

- ・筆談(識字者の場合)
- ・動作／ジェスチャー／絵を使って
- ・辞書／電子機器を使いながら